

プロジェクトのタイトル：

マクロ環境と国債管理コスト：コロナショックとリーマンショック時の比較

研究者名・所属・メールアドレス

小枝淳子・財務省財務総合政策研究所・jkoeda@gmail.com

プロジェクトの目的と研究方法の要約

コロナショックをはじめ、リーマンショック、東日本大震災、大型の台風などを背景に危機対応に関する重要性が近年増している。しかし、対応に必要な資金調達、国債増発に頼らざるを得ない状況にある。世界的には低金利・低インフレの下で国債増発を容認する雰囲気があるが、日本の債務残高は、世界の中でも突出しており、借換債の額も毎年 100 兆を超えている。このような状況にある日本では、国債管理におけるリスクやコストに関する分析を十分に積み重ねておくことが重要である。金利は相変わらず低い水準で推移しているものの、潜在的なリスクを考えれば、金利が低ければ債務を積み上げても構わないとはいえない。

危機に際しては、マクロ環境に大きな変化が起こる。国債管理政策の視点からも、景気の見通しの大幅な悪化はリスクプレミアム上昇につながりうるし、名目金利と関連が強い物価の動向やその不確実性にも注意を払う必要がある。従って、マクロ環境を考慮しながら長期金利の動向を分析することが不可欠である。本稿では、まずリーマンショックとコロナショック時におけるマクロ環境の比較を行う。そして Koeda and Wei(forthcoming)で推計している標準的なマクロファイナンスモデルとその拡張型を使用して、危機対応に際しての国債管理リスクやコストについて考察を行う。

使用するデータ

国債 (JGB) 利回り、マクロ変数

JEL コード

G12、H63

キーワード

国債管理政策、マクロファイナンス、金利の期間構造モデル、タームプレミアム、金利の下限